

## 「米軍、アフガニスタンから撤退」

2021年09月06日

米軍は、アフガニスタン（以下－アフガン）における20年間のタリバンとの戦争に敗北し、8月30日撤退した。2001年9月11日に米国を襲った同時多発テロは映画のシーンを見るような惨劇であった。私は、差別、抑圧されたアラブ人の怒りが爆発したと思った。このテロの首謀者と認定されたアルカイダのビンラディンをタリバン政権がかくまっていると、アフガン戦争が始まった。国連の支持を得て、他国籍軍も参加した。米軍の激しいタリバン掃討作戦で、タリバン政権は崩壊し、選挙で勝利したカルザイ氏が大統領に就任した。米国は、アフガンを人権と自由を保障する民主国家にしようと努力したが、米国の説く民主主義をアフガンは受け入れることができなかった。アラブ社会はカリフという部族長が治める社会で、一国家による支配、統治はなじまなかったであろう。また、アフガン政権と政府軍は腐敗、汚職が満延し、民衆の支持を得ることができなかった。

タリバンとの戦争において誤爆があり、多くのアフガン国民が殺害された。20年に渡るタリバンとの戦争に、米国は八十万人以上を派兵し、二千五百人以上が戦死し、二兆ドル（二百十兆円）もの戦費を投入している。アフガン人の被害の実態は知らされていない。命の重さが違うというのであろうか。不条理なアフガン戦争の結果は全面撤退という米軍の敗北である。ブリンケン米国国務長官は、軍事的関りは終わり、外交的な関りになっていくなどと言っているが、笑ってしまう。バイデン大統領も、最高の撤退作戦であったなどと言っているが、映像で見る限り、米国の身勝手と敗北の醜態以外の何ものでもない。

20年前のタリバンは、暴力的に治める恐怖統治であったらしい。殊に、女性の人権を認めず、教育を受けさせず、社会に進出を認めない暗黒であったという。刑罰も残酷であったらしい。そのタリバンは米国に強圧的に抑え込まれていたが、勢力をぶり返し、アフガンの全域を掌握していった。そして、あつという間に、首都カブールを制圧した。タリバンは米軍をはじめ、外国軍を追い出したと勝利宣言をし、夜空に祝砲を打ち上げている。

米軍や多国籍軍に協力したアフガン人はタリバンに殺されると恐怖が広がっている。彼らは、米国や関係した国々に脱出したいと懸命である。カブールの飛行場は脱出を願うアフガン人でごった返している。離陸する飛行機にしがみ付き、飛び立った飛行機から落ちて、死ぬ人がいるというから、彼らのタリバンへの恐怖は相当のものである。この光景は、ベトナムのサイゴン陥落の時の光景と重なる。逃げる米軍に必死で、助けを求める人々は、哀れで、本当に気の毒であった。

これらの事実から、学ぶことが多い。主イエスは「剣を取る者は皆、剣で滅びる」と言われた。米国は圧倒的な軍事力を持っている。空爆やミサイル攻撃は、比較できないほどの威力があるが、戦争の最後は地上戦になるらしい。その時、使命を持つ軍隊と他国に押し寄せた軍隊では、戦意が違う。国を愛し、守ろうとする者は、必ず勝利する。ベトナム戦争、ソ連のアフガン戦争、イラク戦争、そして、今回のアフガン戦争も皆、超大国の敗北で終わっている。このことの歴史的意味は限りなく大きい。

日本は、アフガン戦争で給油作戦に加わり、イラク戦争では、自衛隊を派遣した。米国のお先棒を担いだ訳である。イラク、アフガン戦争に従軍した米国軍人が『冒険（戦争）』に誘われた時に、米国人として言いたいことは『我々を信用するな』ということだ』と警告している。今後、タリバンがどんな国造りをするか不明であるが、戦争に加担したアフガン人に報復しないでほしい。また、国外脱出を求める人には、当事国は全力を尽くして出国させる義務がある。日本に助けを求めている人が五百人以上いると報道されている。